

## 主な導入製品

■ IPオーディオ・コーデック

Via

■ IPオーディオ・コーデック(DSPベース)

Gateway

■ 高性能ステレオIPオーディオ・コーデック

Bridge-IT



## Tieline<sup>®</sup>

The Codec Company

## ■ Tieline社

1981年に設立されたTieline社は、オーストラリアと北米にオフィスを構え、南北アメリカ、ヨーロッパ、イギリス、アフリカ、アジア、中東、オーストラリア、マレーシアにまたがるグローバルな販売ネットワークを展開しています。

## ■ 事業内容

コーデック技術の開発に42年以上携わり、さまざまな用途や価格帯に対応する幅広いコーデック製品を開発・設計・販売しています。

<https://tieline.com>

### KBS、IPインカムソリューションにTielineコーデックを導入

韓国CNWジェネラルマネージャー、シーン・ヒョンウク氏は、韓国のすべての主要放送ネットワークと緊密に協力し、主要な放送イベントやインフラのアップグレードのために、最先端のIPオーディオ・ソリューションを導入してきました。

韓国放送公社(KBS)は韓国の国営放送局であり、テレビやラジオの大手放送局です。KBSやホスト放送局と緊密に協力し、2019 FINA世界水泳選手権大会、2017 FIFA U-20ワールドカップ、2018 ISSF世界射撃選手権大会など、近年の主要イベント向けに最先端のIP解説・通信ソリューションを提供してきました。

2022年、KBSはOBバンとKBS本社のスタジオ間で使用されていたTelco提供の4線式通信システムに代わる、新しいIP通信ソリューションを探していました。この4線式システムは、KBS本社にコントロールルームを追加する必要があり、使用前には毎回予約が必要でした。また、このソリューションは高価であり、KBSのエンジニアが独自に管理することは不可能でした。そこでKBSは、既存の4線式システムを公衆インターネット経由のIPを使用した音声コーデック・ソリューションに置き換えることにしました。

KBSは6台のBridge-ITコーデックと16チャンネルのGATEWAYを購入しました。Bridge-IT XTRAはハイエンドのKBS OBトラックを含む6台のKBS OBバンに設置されました。各Bridge-IT XTRAは、KBSスタジオへの公衆インターネット経由の非常に高品質で低遅延な接続を作成するために、GATEWAYにダイヤルします。GATEWAYはネットワーク品質管理室に設置され、IPオーディオソースを送受信するためにAES67とDanteを使用してRTS OMIインカムシステムに接続されています。通信は必要に応じてKBSネットワーク全体にルーティングされます。

各OBバンは、ステレオ128Kbps、150msの固定ジッターバッファードMusic PLUSエンコーディングを使用し接続するように設定されています。GATEWAYは最大8つのステレオ・ストリームを受信でき、250msの固定ジッター・バッファードを持っています。

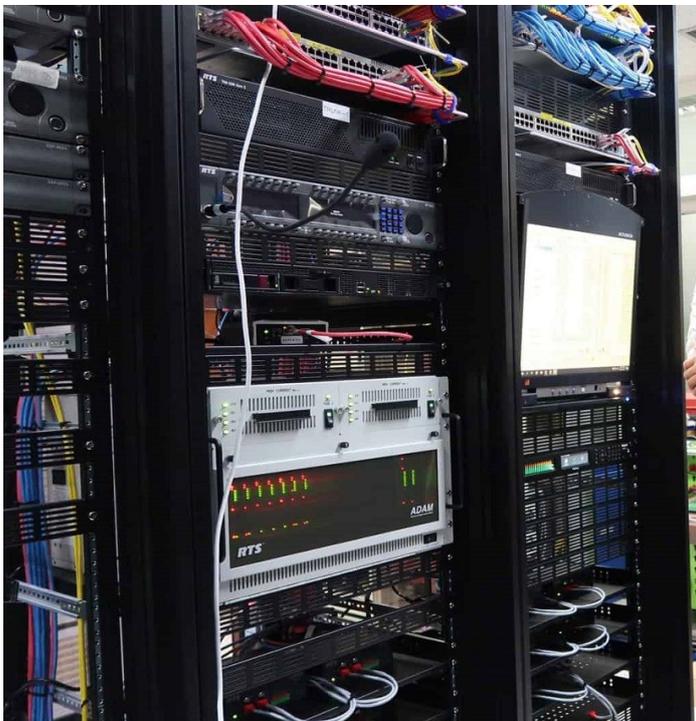
新しいIP通信システムのテストは大成功で、KBSは更新された技術ソリューションに非常に満足しています。KBSはIP音声コーデックの移行を完全に実施する予定です。また、KBSはこのシステムを他のOB車両にも順次拡大していく予定です。

## 2023年ワールド・ベースボール・クラシックでの Tieline ViA

2023年3月、韓国の主要放送局であるKBS、MBC、SBSは、2023年ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)選手権の試合を生中継するため、東京を訪れました。KBSと他のライツ・ホールディング・ブロードキャスター(RHB)は、WBC組織委員会に対し、メイン・フィードとバックアップ・フィードを韓国に伝送するために、Tieline ViA オーディオ・コーデックを供給するよう特別に要請しました。

このリクエストは受け入れられ、韓国の主要なRHBはすべてTieline ViAを使用して、ライブ解説音声、インカム、モニター用のミックスマイナスイターンフィードを含む、イベント中継用のすべてのオーディオソースを配信しました。KBS、MBC、SBSはいずれも韓国のスタジオにTielineコーデックを設置しているため、ViAコーデックは東京からこれらのコーデックにダイアルしました。

すべての放送局はステレオのMusic PLUSエンコーディングで256Kbpsから386Kbpsで接続し、各放送局には2本のイーサネット回線が用意された。1つはメイン伝送オーディオコーデック専用で、もう1つはバックアップコーデックまたはビデオ伝送用に提供された。



メインのKBS音声コーデックはLANとWiFi接続を使用し、データはTielineのFuse-IP技術を使って集約された。各ネットワークのMCRIに送り返された音声は、対象となった4試合の東京からのホスト放送の画像とマッチングされた。

大会の放送は大成功で、WBCの大会終了後、東京でメイン・オーディオ・エンジニアを務めたKBSのパク氏に会ったところ、何の問題もなくスムーズにイベントが進行したと言っていました。これは、Tielineが韓国の幅広い視聴者に完璧で高品質なオーディオソリューションを提供したイベントとなりました。

### 「担当者の声」

“ 新しいIP通信システムのテストは大成功で、KBSは最新の技術ソリューションに非常に満足している。また、このイベントからの放送は大成功でした。これは、Tielineが韓国の幅広い聴衆に完璧で高品質なオーディオ・ソリューションを提供した新たなイベントです。

シーン・ヒョンウク  
韓国CNWゼネラルマネージャー